

(事前C)

評議委員会総合評価

研究課題名：南海トラフ地震の地震像とスロースリップの即時把握に関する研究

評価委員

委員長：小泉尚嗣

委員：岩崎俊樹、関口渉次、馬場俊孝、保坂直紀、渡辺秀文

評価年月日：令和2年8月31日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

発生すれば国難ともなりえる南海トラフ巨大地震災害の軽減のため、本研究を行うことは、社会的かつ学術的な意義がある。気象庁からの要望等や最近の研究動向を踏まえた適切な目標設定をしており、本研究課題の実施により、気象業務等への貢献をもたらす十分な成果が期待できる。

提案されている研究内容は、現在の技術の延長上にあるものに加え、(学術的に価値はあるが) 困難なものも含まれていて、迅速かつ適切な南海トラフ地震臨時情報に役立てようとする意欲が伺えて評価できる。次世代の観測技術の検討も積極的に行われる計画で、南海トラフ域の地殻活動評価高度化に向けて適切な研究内容と思われる。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・ 従事する研究者に過大な負担がかからない範囲で、適切に研究が進められることを望む。
- ・ 数値シミュレーション研究を積極的に推進するとともに、実態把握のための経験的手法の精度向上を図り、南海トラフ地震の被害軽減に努力していただきたい。
- ・ 社会の防災リテラシーの向上における本研究成果の利活用について、社会的な要請も大きいことから少し検討したほうがよいかもしれない。
- ・ 研究者自身が社会に研究の実情を伝えてほしい(=リスクコミュニケーションへの留意)。